牛伝染性リンパ腫(牛白血病)の最新知見と対策

牛伝染性リンパ腫（牛白血病）とは

牛伝染性リンパ腫（2020 年に「牛白血病」から改名されました）は、血液中のリンパ球の異常増加や全身性の悪性リンパ肉腫（コブ状の腫瘍）を症状とする病気です。牛伝染性リンパ腫はウイルスに感染した牛のすべてが発症するわけではなく、多くが無症状のまま過ごすため、と畜場で牛伝染性リンパ腫と診断されて気付いたという事例も多く、十勝NOSAI の家畜共済事故として令和2 年度は49 件発生しています。

牛伝染性リンパ腫には4 タイプありますが、そのほとんどがウイルスが原因となるタイプで占められており、2011 年の農水省の調査報告では日本の牛の35%が既にこのウイルスに感染しているとしています。残念ながら、いま現在は有効な治療法やワクチンはありません。

牛伝染性リンパ腫ウイルスの感染経路は非常に限られていて、ウイルスを含む血液と乳汁によって感染します。コロナウイルスやインフルエンザウイルスのような飛沫や空気感染はしません。感染経路には、**垂直感染**（母子感染）と**水平感染**（群内での感染）が知られています。（図1・2）

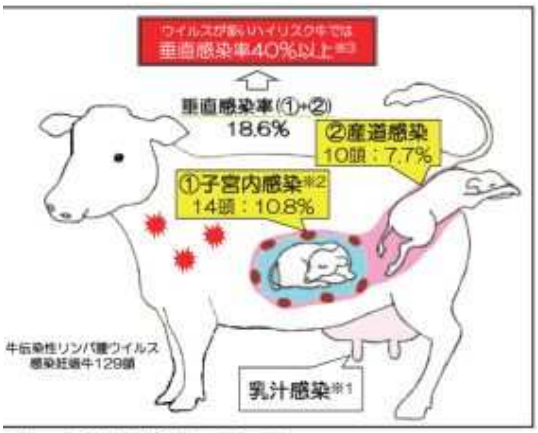

図1：垂直感染について
図中の牛伝染性リンパ腫ウイルスの垂直感染率（%）は、既に清浄化が完了している6,000頭飼育牧場の感染妊娠牛129頭について調査したもの（2015年）

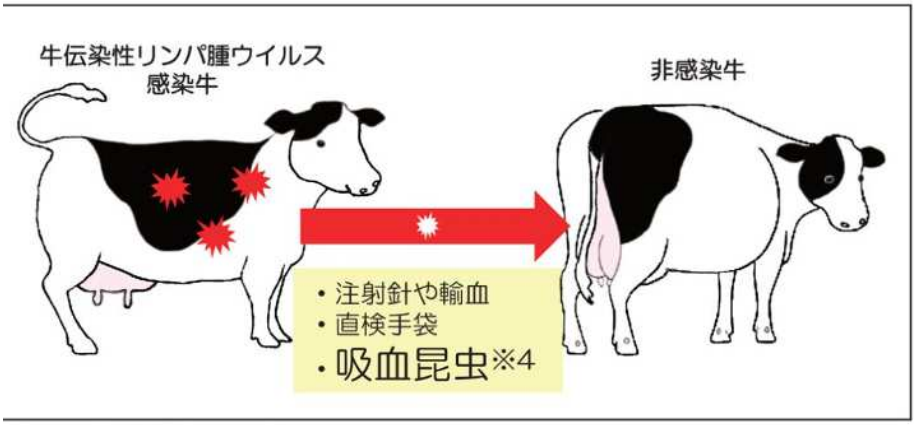

図2：水平感染について
牛伝染性リンパ腫ウイルスは、感染細胞を含んだ新鮮な血液でうつる。
/大量出血しても、かさぶた（乾燥血液）は感染源にならない
/吸血昆虫（サシバエ）の口に付いた血は1時間以上経てば感染力がなくなる→連続吸血させない＝分離飼育の有効性
/いま一度、医原性感染にもご注意を！→1頭1針、直検手袋は1頭毎に交換、去勢・除角・耳標装着時の器具消毒

新たな感染牛を増やさないために…感染経路を断つ